

課題名	地域課題の解決に取り組む協働活動組織の育成と支援	地域づくり	山城北・南農業改良普及センター
(1) 普及指導事項（評価対象） 複数集落の連携と関係人口との協力体制による農地有効利用の取組拡大		(2) 普及指導対象 京田辺市普賢寺地区 6 集落(天王・高船・打田・水取・普賢寺・多々羅) 639 戸(1,415 名)：うち専業農家 8 戸・兼業農家 85 戸 京田辺市普賢寺地区連絡会(12 名、普賢寺地区 6 集落から農業委員と運営委員が各 1 名ずつ)	
(3) 活動内容と成果 <令和 3 年度までの経緯> ①普賢寺地区連絡会と関係機関により、6 集落の農地利用マップを作成し、京力農場プランを策定した。 ②普賢寺集落では、獣害対策としてバッファゾーンの設置とイノシシの低嗜好性作物（トウガラシ）栽培の組み合わせを普及センターが支援した。その結果、行政任せでなく農家が主体となって獣害対策に取り組む体制ができ、農家同士でイノシシの侵入経路などについて話し合い、防護柵の補強を行った。 ③打田集落では、耕作放棄地の現状と対策について話し合う場を普及センターと京田辺市役所が設定した。その結果、獣害対策について意見や要望が多く提案された。 <令和 4 年度の成果> ①打田集落で研修会を普及センターと京田辺市役所の呼びかけで開催し、農地利用マップに担い手の年齢、利用権設定の年数等の情報を記入し、農家が自主的に農地保全や獣害対策に取り組む体制づくりに向けた話し合いを始めた。 ②トウガラシ栽培による獣害対策は普賢寺集落から水取集落に拡大した。 ③打田集落のイノシシによる被害の現状と対策をとりまとめて研修会を開催し、被害低減に向けて技術実証を始めた。			
(4) コメント		(5) 普及指導計画への反映状況、今後の活動等	
<要約> ①耕作放棄地や高齢化の問題は、どの地域も抱える問題であり、地域住民への働きかけにより、6 集落が連携して動き始めたことが評価できる。 ②農業従事者が高齢になり、組織を作っても維持していくことが困難になっているので、10 年先、20 年先の将来展望も念頭においてほしい。		①現在、取り組んでいる 6 集落間の連携への支援に加え、今後さらに新たな集落営農組織の設立や集落を越える農作業受委託について取り組みを進めます。 ②集落営農組織の構成員の高齢化について、定年前の組織への加入呼びかけなどの対策を天王集落営農組織設立時に取り組んでもらっており、これから新たに設立する組織にも同様の支援を進めていきます。	

<p>③ボランティアだけでなく、担い手として参加（収入を得ることができる）や若いリーダー育成のために経済的な基盤が作れるような方向性も必要ではないか。</p> <p>④地域農家のあり方を示す地域計画での目標地図策定が法定化されたので、それとの連携を進めていくことも効果的である。</p> <p>⑤イノシンによる農道の掘り起こし対策としてワイヤーメッシュの設置をされているが、草刈りへの影響はないか？</p> <p>⑥集落間連携により持続性のある活動がなされることを期待する。また、地域の市街地には新住宅や大学もあり、市役所等と連携して関係人口の増加、参画が増えることを期待する。</p> <p>⑦行政、JA、福祉事業所が共同で農福連携を推進されている地域なので、その力を借りてより多くの人達で地域活性化に取り組んでいただきたい。</p>	<p>③農作業のボランティアやアルバイトに従事する関係人口の中から、より深く地域と結びつくような人材になってもらう取組を進めていきます。また、収入の確保を念頭におき、集落営農組織が水稲以外の作物で農地を維持する取組を進めていきます。</p> <p>④京力農場プランの実質化について、打田集落を皮切りに他の5集落へも同様の取組が波及するよう京田辺市役所と連携して普賢寺地区連絡会での話し合いを進めていきます。</p> <p>⑤打田集落で、法面へはワイヤーメッシュを開閉型に設置することで、除草作業時に支障のないような方法を提案しています。農道へは出荷規格外の赤トウガラシ果実粉砕物を混和して碎石を敷設することで、掘り起こしの防止と除草作業の軽減を実証します。</p> <p>⑥現在、普賢寺集落内で市民や大学と連携した活動を支援していますが、この取組を他集落に波及するための受け皿づくりを、京田辺市役所や京田辺農福観地域づくり協議会等と連携して進めていきます。</p> <p>⑦現在、新たな特産品の販売に向けて、普賢寺集落内で関係人口、大学、集落営農組織、福祉事業所、農産物直売所の連携構築に取り組んでおり、その成果を他集落へも広げていけるよう検討します。</p>
--	--